令和８年度小平市立小平第三小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

話や文章の種類と特徴についての理解に関する正答率は、全国平均よりも 9.3 ポイント高い。

情報の扱いに関する問題と表現の工夫に関する問題で正答率が全国平均よりも低い傾向があった。

課題

資料の活用については、資料を正確に読み取り、表現を工夫すること、情報の扱いについては、情報と情報をつなげて読むことに課題が見られた。目的に応じて、また情報を結び付けて読むことに苦手意識があると思われる。

学校で取り組む具体的な改善策

説明文を読むときには、事実と感想、意見などとの関係について叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えることができるようにする。文章における役割を把握できるようにデジタル教科書も活用しながら、学習を進める。また、原因と結果など情報と情報に視点をもたせて読めるようにし、文章を書くときに活かせるように、文章と図表などを照らし合わせて読むことを意識させる。

【算数】

状況の分析

数量の関係に着目し、条件に合う時間を求める測定に関する問題で正答率は良かった。

データ活用の領域に関する問題と記述式の問題で正答率が低かった。

課題

データ活用について、帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることに課題が見られた。単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味理解に課題が見られた。

学校で取り組む具体的な改善策

データを整理・分析する場面を各学年の授業に意図的に設定する。表やグラフを作成するだけでなく、「表やグラフから何が分かるか」「どのように考えたのか」など説明できるようにするために、ペアやグループでの発表を取り入れる。また、単位量当たりの大きさを求める問題では、「１人当たり」「１「１個当たり」など、基準となる量を明確にし、「何の量を１とするのか」を意識する指導を徹底する。

【質問紙】　　状況の分析

「PC タブレットを１日に複数回活用している。」のポイントが全国・東京都と比べて 40 ポイント高く突出している。３年前の研究発表から引き続き効果的な活用に取り組んできたことが要因に考えられる。外国語や特別活動、人の役に立つ等のポイントが高く、重点的に取り組んできたことを児童が意識して生活していることが分かった。

課題

「国語は好きですか。」が全国・東京都と比べて５ポイント低い。「引用して書き表す」「文章を読んで考えをまとめる」「国語に関する先生の指導に関わる問い」は全国平均を上回っている。漠然と国語が嫌いな苦手だと感じる児童が増えていると思われる。

学校で取り組む具体的な改善策

国語の苦手意識改善は、何が原因なのかを捉える必要がある。日々の漢字の書き取りの負担感や１時間の授業で学んだことが曖昧ではっきりしないこと等が推測されるため、その原因を捉えた上で、学力向上課で対策を話し合い、実行していく。

【具体的な日程】

１０月上旬にアンケート作成と実施。

１０月下旬に学力向上課で話し合い、管理職に起案。

１１月から対策に取り組む。

同じアンケートを学校評価後期の１２月末と同時に実施し、年度内に評価できるようにする。